

(第1号議案)

## 令和2年度事業報告

(令和2年10月から令和3年9月)

代表幹事 入倉 要

令和2年度も、前年度から続く新型コロナウイルスとの戦いに明け暮れた1年でした。経験したことのない事態に試行錯誤の対応が続き、感染拡大と収束を繰り返してきましたが、猛威を振るった第5波も、ワクチン接種の進展や医療崩壊が現実化した中での危機感の高まりによる国民の行動変容などから、令和3年10月上旬の現時点では久しぶりに全国すべての都道府県で、緊急事態宣言、まん延防止等重点処置が解除され、今後の経済活動の再開に期待が高まっています。

こうした状況下、1年延期して開催された東京オリンピック・パラリンピックは、無観客開催という異例の開催となりましたが、重苦しい雰囲気が続く社会において、アスリートの姿に元気と勇気をもたらした国民も多かったことと思ひ、改めてスポーツの持つ力を感じたところです。ただ、そのようにたいへん良かった反面があった一方で、オリンピック期間中に感染が拡大してしまったこと、さらには1年の延期や感染対策により当初予算よりも莫大な金額を費やすことになったことなど、課題も多い大会でありました。

一方、政治分野をみますと、ほぼ1年前に発足した菅内閣ですが、新型コロナウイルス対策や説明責任・訴求力の欠如などが批判され支持率が大きく落ち込み退陣を余儀なくされ、新たに岸田内閣が発足しました。衆議院選挙も控え政治的な空白が心配されているところですが、難問山積の国政において、国民の声に耳を傾ける意向の新総理のかじ取りに大いに期待したいところです。

そのような中、令和2年10月から始まった令和2年度の山梨経済同友会の事業は、前年度に引き続き通常の委員会活動が難しい状況にあり、設営に最大の注意を払って計画通りに開催した常任幹事会と、少人数の打合せ形式の委員会・部会の幹部会を開催することが、主たる活動とならざるを得ませんでした。また、代表幹事の関わる各地同友会あるいは各種団体との定例会議も、オンライン会議または書面での会議が主流となりました。

しかし、コロナ禍での変化をいち早く捉えて開催した、『ICT勉強会』(2021.6.13)や『女性活躍パートナー会議』(2021.7.13)は、リアルとリモートのハイブリットで開催したこともあり、参加者からの好評を得ることができた事業でした。

いろいろな制限の下、コミュニケーションが取りにくく、委員会・部会の活動や情報循環の停滞が懸念されるなかで、対策として山梨経済同友会のホームペ

ページの充実に取り組みました。今後も利便性の向上を目指し、更なるホームページの充実に取り組んでいきたいと思ひます。

また、前期は他団体等との連携協定を締結する機会も多く、それぞれの団体単独ではなく「山梨県」という括りの中で連携していこうという動きが加速したのも、昨年度の特徴であったかと思ひます。その一つが、SDGs への取り組みです。持続可能な社会を実現していこうというこの取り組みは世界の常識となりつつありますが、山梨経済同友会も SDGs の概念を活動に落とし込んで、わかりやすく情報発信や情報循環を進めていきたいと思ひます。

以上が、前年度に引き続き、大変イレギュラーな 1 年間となった令和 2 年度の活動報告になります。



(3. 6. 11 ICT 勉強会)

(リアル会場 29 名、オンライン 80 名)



(3. 7. 1 SDGs 推進に関する協定締結式)



(3. 7. 13 女性活躍パートナー会議)